

解し、継続する努力が自分を前進させ、彼らに近づく事が出来る経験をスウェーデンで味わっていたので、それだけが心の支えでした。

救急・集中治療部は経験する症例も多く、研修医向けの勉強会も密度濃く、最高の環境と思いました（救急患者入院数1位、救急車応需数2位：全国国立大学病院中）。

しかし、これだけ優秀だと差がありすぎる琉大卒後の研修医は共に頑張れる仲間がいなければ、心が折れると思いました。

勿論、東大卒ではない研修医も採用していますが、それでも話していると優秀だと感じます。

ちなみに救急・集中治療部をまわる研修医は年間100名もいて、そのうち約30名が院外の救急部を研修します。勉強会は会議室からあふれる程、大反響で都内の大学とWebカンファレンスをやり始めています。

積極的に臨床に参加し、食らいつくのが当たり前という雰囲気が医学部生や研修医から意識せずに出ている事に感動しました。

東大に来て意外だった事は勤務してすぐに病院内で数名の琉大卒の医師や研修医に出逢った事です。彼らは脳神経外科や耳鼻咽喉科、皮膚科等々に入局していて、仕事内容を聞くとやはり研

修医の頃より環境はハードで、この様な厳しい環境だと仲間同士、切磋琢磨し合えば成長し、数年後には間違いなく相当な実力がついてはいるはずで、応援しつつも羨ましく思いました。（私の価値観で月に1～2日の休日があり10日前後の当直で、それ以外の日は36時間連続勤務が多い環境はハードとは思いません）

私が経験した範囲内で東大はマスコミや世間の大学が言う程ひどくなく、むしろ得られるものが多く、知識量や頭の回転の早さ、理論的な構築等々はさすが世界Topレベルで、ここで頑張っていけば得られるのも大きいですが、精神的にタフでなければ生き残れないと感じました。東大救急部・集中治療部がこの短期間で伸びてきた理由やノウハウを親切に教えて頂いただけでなく、教授や准教授始め多くの先生方から丁寧に指導してもらった事に非常に感謝しています。

単身赴任で家族の協力も得て、色々な犠牲を払いながら出来た研修だったと思います。この経験を大学や後輩医師、研修医に還元出来るようにするため現在、行動中です。同窓生の皆さんに何か伝われば幸いです。

